

## 【三本松砂防堰堤】

### ●景観形成の目標像

周辺の自然環境の雰囲気を壊さない砂防事業を目指し、  
周辺の自然景観に調和した砂防空間を保全する。

#### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

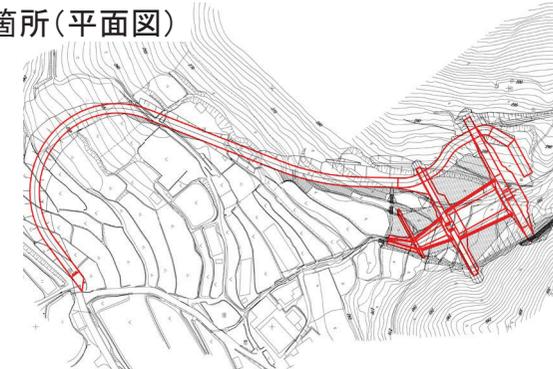
周囲の景観と構造物との調和を図るため、無機質なコン  
クリートむき出し等の外観を避ける。

#### ②細部設計、材料等の選定の考え方

構造物の麓側からの可視面の修景には、化粧残存型枠  
を使用する。



事業箇所(平面図)

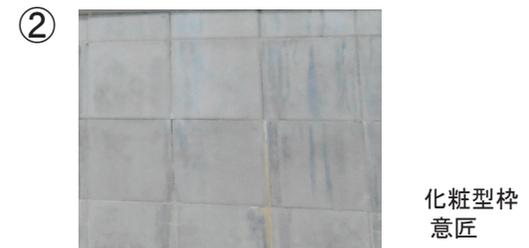


木津川水系直轄砂防事業：木津川水系における土砂流出に起因する土砂・洪水氾濫被害および土石流被害から国民の生命・財産および重要交通網等の社会基盤を保全するための砂防事業

(事業前)



(事業後)



## ● 景観形成の目標像

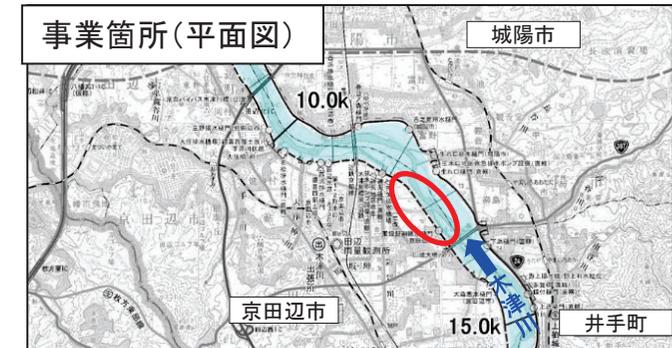
木津川の自然豊かな自然景観との調和を図る。

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

堤内側には、多くの畑が存在し、比較的住宅の少ない環境となっていることから、ドレーン工の上から覆土、張芝を行い、自然豊かな自然景観の調和に配慮した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

河川景観への影響を極力少なくするため、堤防斜面に覆土及び張芝を行い、周囲に溶け込む緑豊かな景観となるよう配慮した。



## ● 景観形成の目標像

木津川の自然豊かな自然景観との調和を図る。

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

周辺は田畑として利用されていることから、ブロックマットの上から覆土、張芝を行い、自然豊かな自然景観に配慮した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

河川景観への影響を極力するなくするために、ブロックマットの上から覆土、張芝を行い、周囲に溶け込む緑豊かな河川景観になるよう配慮した。



(事業前)



(事業後)



● 景観形成の目標像

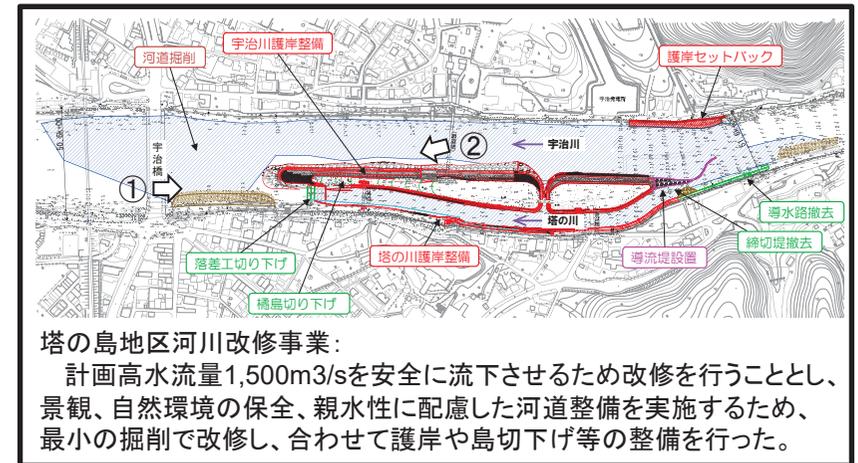
河川がもたらす自然の作用によって形成された「中洲」としての姿を現代的に考え、それをよりどころとして、歴史的に蓄積されてきた人と川、人と自然の親密な関係を、文化的環境、文化的景観として再生する。



① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
「中洲」のイメージを復元するため、島下流部を緩やかな勾配で切下げ、水際に捨石を設置することで中洲の印象を創出する形状とした。

② 細部設計、材料等の選定の考え方  
護岸に使用する石材は、自然景観と調和させるため、現況河床材料に近い揖斐石を使用し、歴史・伝統・文化・観光に資する石積工法による自然石護岸とした。

③ コスト縮減  
護岸形式は学識者や地元観光業関係者で構成する検討会を開催し、空石積み工法と同等の景観が確保でき、コスト縮減および工期短縮が図れる「背面アンカー一体型練り石積工法」を採用した。



①(事業前:島が人工的な景観)



①(事業後:島を中洲のイメージに復元)



②(事業前)



②(事業後)



②細部設計、材料等の選定の考え方

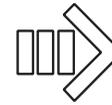
護岸に使用する石材は、自然景観と調和させるため、塔の島から半径200km以内で調達可能な石材の内、現況河床材料に近い**揖斐石**を使用。



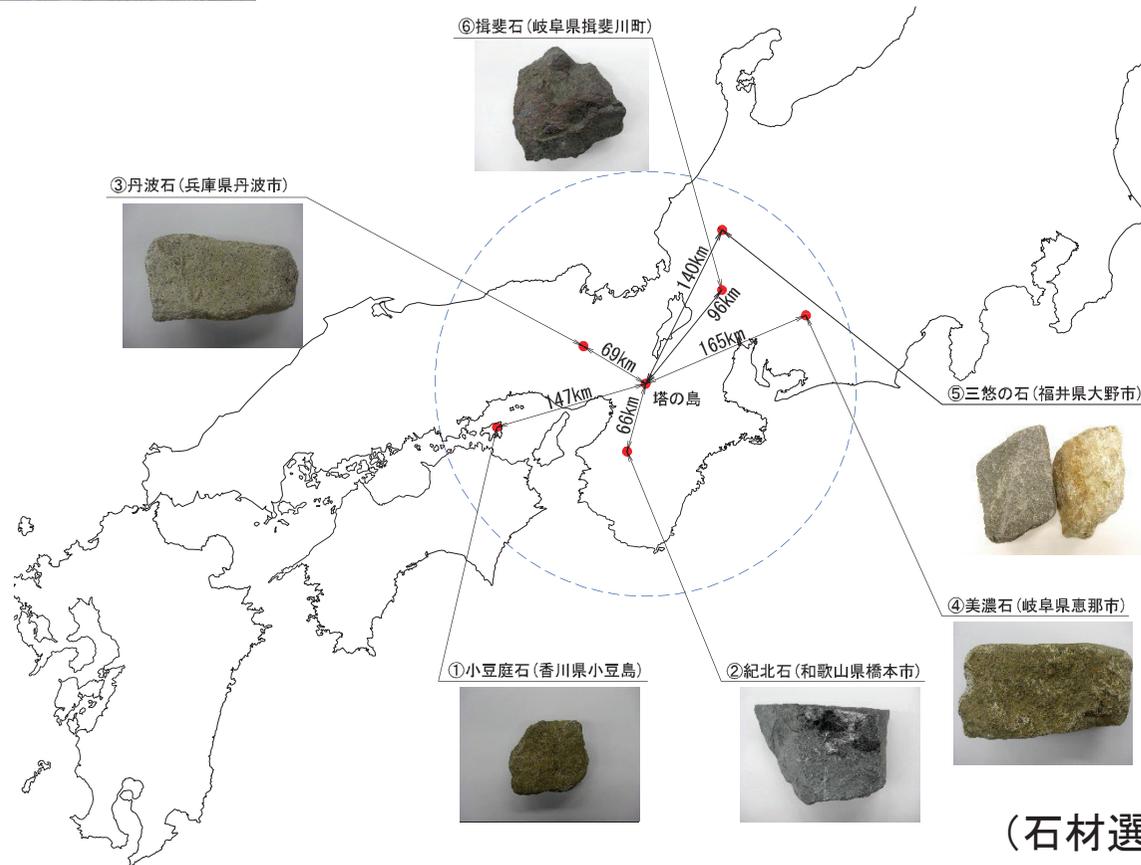
【試験施工地点で採取】



【塔の川直下流で採取】



【揖斐石】

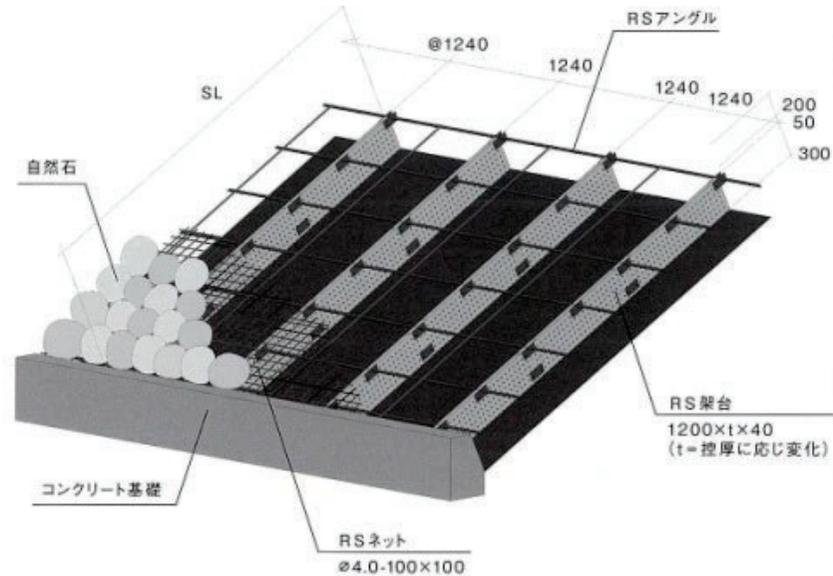


※①～⑤は山石であるが、  
⑥は川石で護岸石材に  
合致する。

(石材選定位置図)

③コスト縮減

護岸形式は学識者や地元観光業関係者で構成する検討会を開催し、空石積み工法と同等の景観が確保でき、コスト縮減および工期短縮が図れる「背面アンカー一体型練り石積工法」を採用した。



アンカー打ち込み



架台の設置(組み立て)

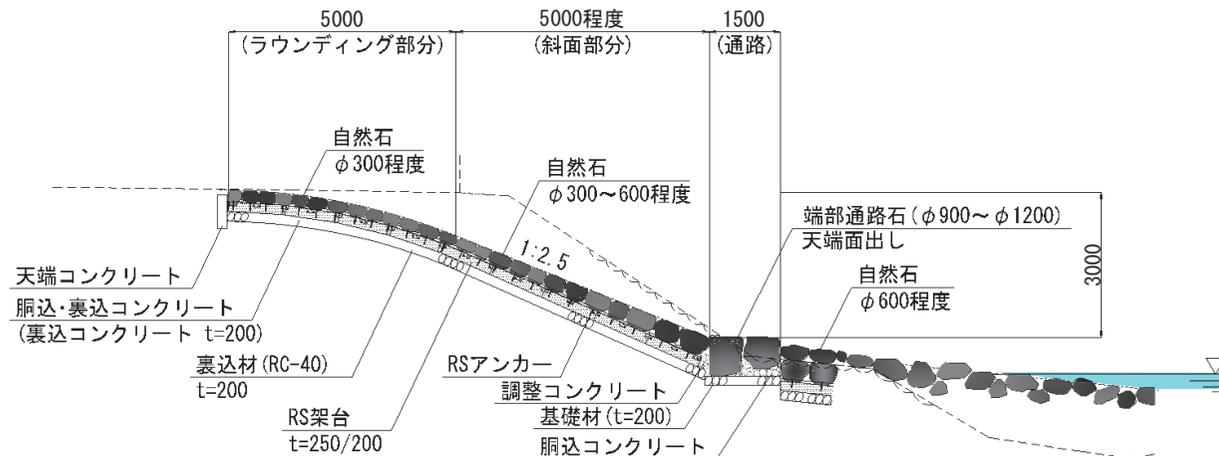


石材の据え付け



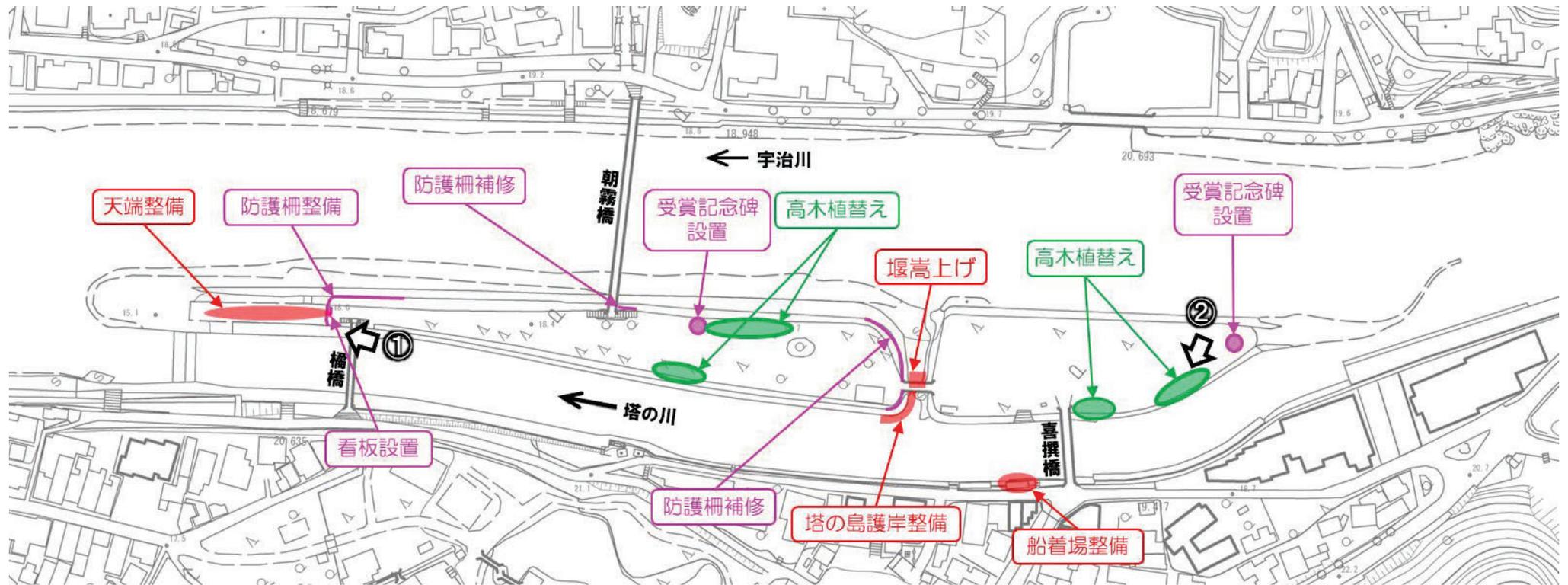
コンクリート打設

(背面アンカー一体型石積工法の施工イメージ)



(宇治川護岸標準断面図)

- 令和元年度報告後に実施した整備内容について、堰改良や護岸、天端、防護柵等の整備・補修を実施。
- 景観形成の目標像や整備方針については、過年度設定を踏襲して実施。
- 地元代表者や宇治市観光協会、商工会議所、宇治市と調整・合意のもと実施。



①(整備前)



①(整備後)



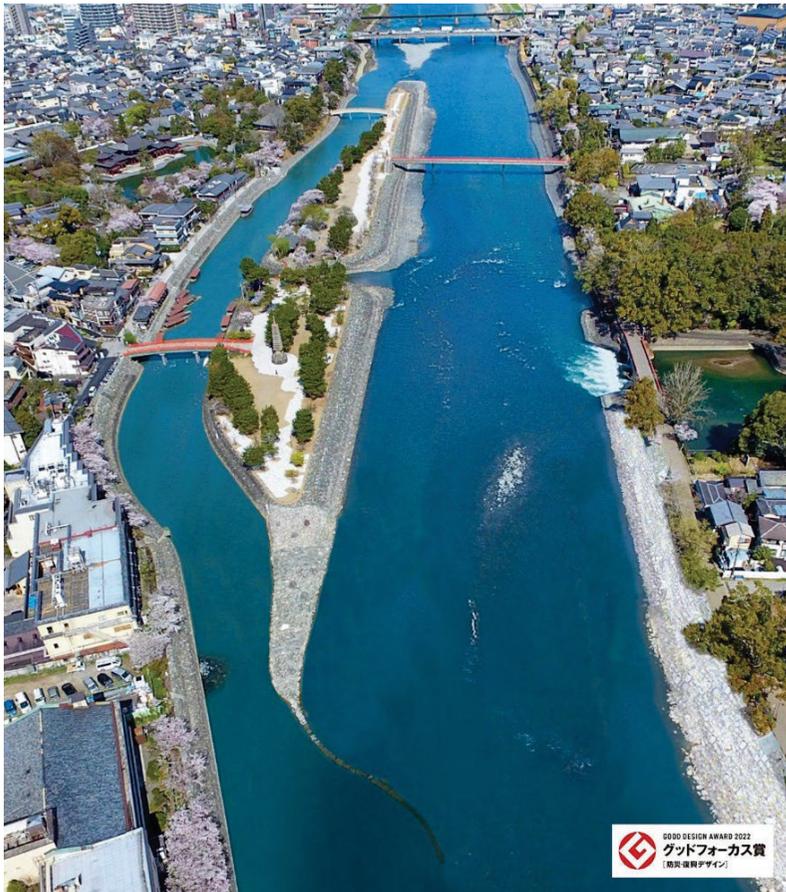
②(整備前)



②(整備後)



- 宇治川塔の島河川整備事業における景観等が高く評価され、2022年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞するとともに、グッドフォーカス賞[防災・復興デザイン](日本デザイン振興会会長賞)にも選出されました。
- 審査委員からは、下記の評価をいただいている。
- また、受賞を記念し、令和5年3月25日、京都府立宇治公園内2箇所にて記念碑を設置した。



 GOOD DESIGN AWARD 2022  
グッドフォーカス賞  
(防災・復興デザイン)

○審査委員の評価:

河道掘削、護岸整備、合流堰整備といった土木スケールの整備ながら、歴史的文化遺産が点在する地域に相応しい品格を持ち、遠景からディテールまで美しい現れとなっている。  
中州が形成される河川の自然の作用を生かしたことで、植生が繁茂しはじめるなど環境再生効果も生じており、水際や柵のデザインによって人々の憩いの姿もまた景観の一部になっている。  
人の生活や文化は河川とともにあるが、一方で河川災害が激甚化しているなかで、ただ自然にあらがうだけの土木工事とは異なる考え方で、治水と景観の一体的整備を行ったモデルとして高く評価できる。



受賞記念碑  
お披露目

祝 宇治川塔の島河川整備事業  
グッドデザイン賞受賞 記念式



受賞記念碑(塔ノ島)



受賞記念碑(橋島)

※近畿地方整備局が事業主体の河川整備事業において初めての受賞

## ● 景観形成の目標像

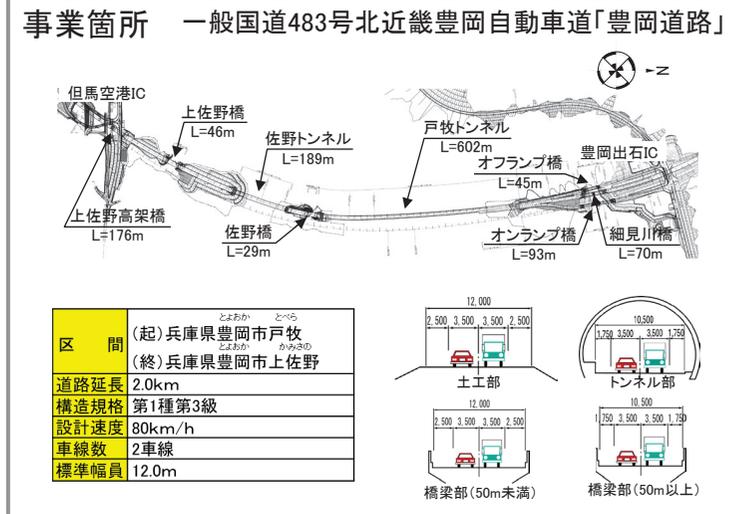
河川沿いに広がる田園風景や山並みなどを尊重し、丘陵・田園風景と調和した道路

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

- ・丘陵部・田園地帯の橋梁については、周辺景観と調和させるため、橋梁塗装色の検討を行い、緑色系を採用した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

- ・周辺景観との調和、利用者の抵抗感軽減に配慮するため、種子吹付等を実施し、法面の安定と緑化を実施した。
- ・トンネル坑門部は、豊岡市のシンボルであるコウノトリをモチーフにするなど地元との親和性を高めて、重量感・圧迫感の軽減に努めた。
- ・景観的秩序を整える観点から、防護柵、照明柱 標識柱の色彩はダークブラウン色にて統一した。



(事業後)

(事業前)



## ● 景観形成の目標像

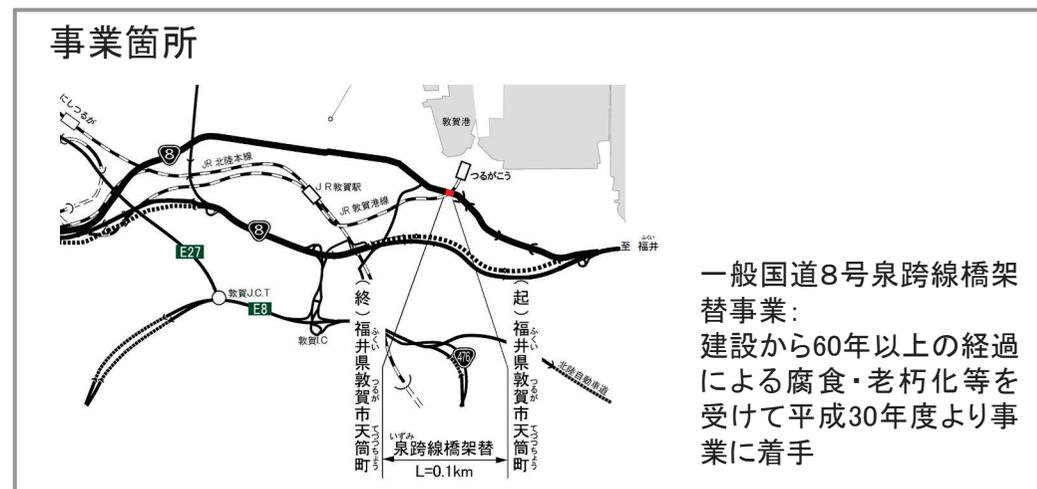
周辺空間との調和のとれた道路空間の形成を行う。

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

函渠、擁壁部は圧迫感を避けたシンプルな形態とするため、壁面に自然石積み風パネルを採用した。  
落下防止柵は、道路の連続性を感じさせるとともにできるだけシンプルな形状とするため、前後区間と同等・同質の柵を採用した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

落下防止柵の色彩は、周辺景観と調和したものとするため、明度彩度の低いものを採用した。



一般国道8号泉跨線橋架替事業：  
建設から60年以上の経過による腐食・老朽化等を受けて平成30年度より事業に着手

(事業後)

(事業前)

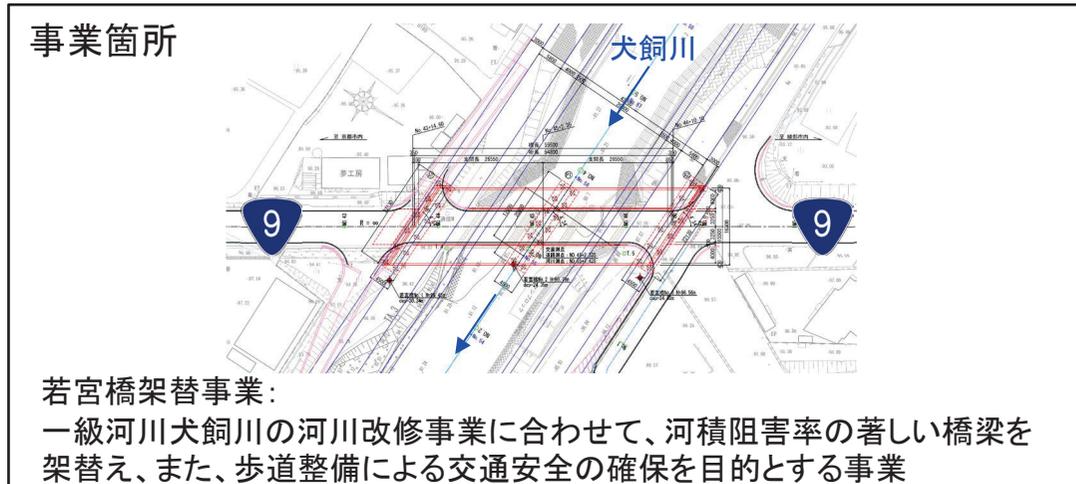


## ●景観形成の目標像

ゆったりとした街路空間と亀岡らしい自然とやまなみが調和した沿道景観の形成

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
道路の連続性を形成するため、高欄の部材構成をシンプルかつ透過性のある防護柵を整備した。

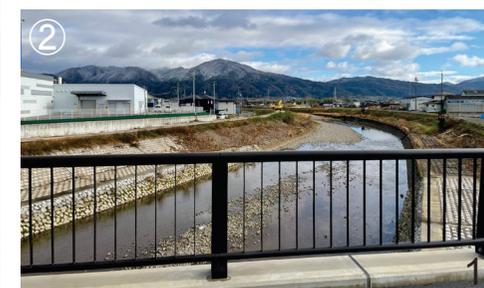
②細部設計、材料等の選定の考え方  
高欄の色彩は眺望障害防止と周辺景観との融和を図るため、明度彩度の低いブラウン系を採用した。



(事業前)



(事業後)



## ●景観形成の目標像

草津市中心部の外郭に位置し、街の骨格を形成する道路であり、周辺には多くの沿道施設、道路付属構造物等が混在するため、これらの施設と調和し、目立たないよう配慮を行う。

### ①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

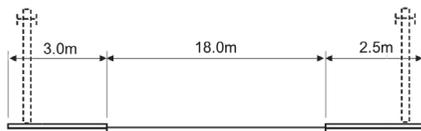
多様な沿道の施設等と調和を図るとともに存在感を低減させるために、付加的な装飾を省いたシンプルな形状を基本とした。

### ②細部設計、材料等の選定の考え方

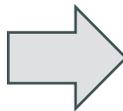
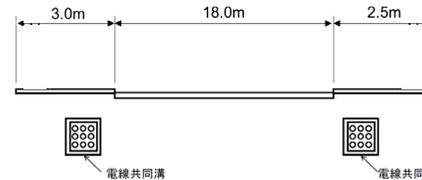
歩行者が比較的多く、周辺の都市景観との調和に配慮するため地上機の色彩はダークブラウンとし、安全性に配慮した製品を採用した。



(事業前)



(事業後)

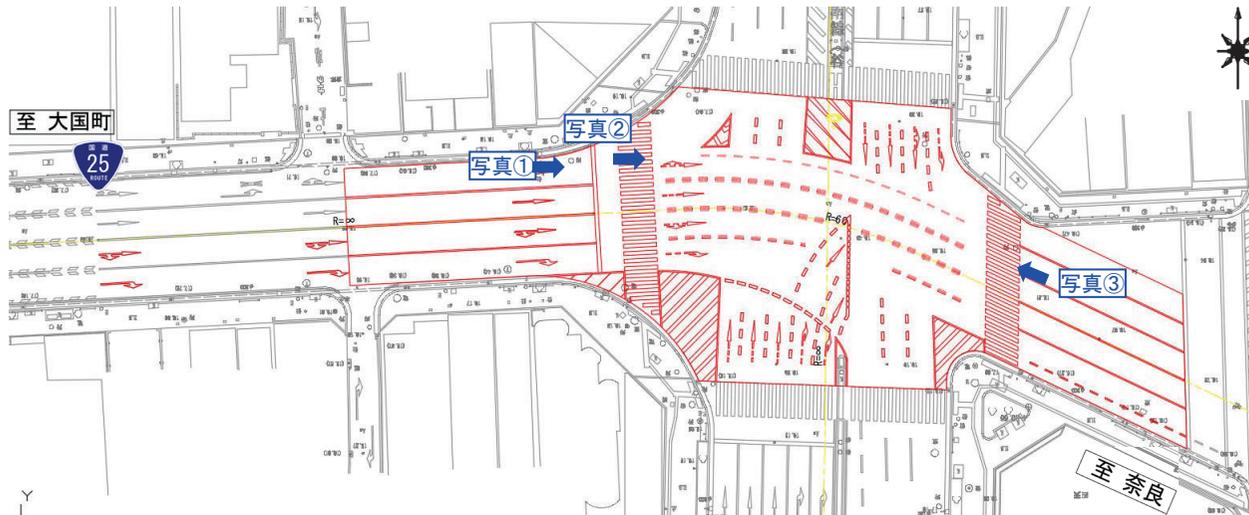
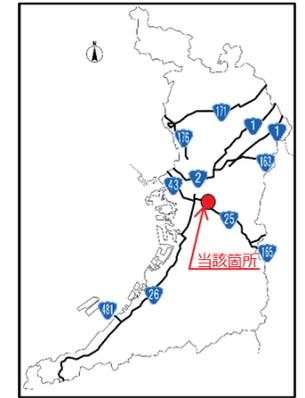


● 景観形成の目標像

“現況の景観を損なわない”ことに配慮した、周辺の景観と調和した景観形成

① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方  
 走行車線を明確化しつつ、周辺景観と調和した道路空間を形成するため、カラー表示範囲を最小限とした。

② 細部設計、材料等の選定の考え方  
 周辺景観と調和した道路空間を形成するため、景観に配慮したカラーを選定した。



**国道25号四天王寺前交差点改良事業**  
 当該交差点は、事故危険箇所を選定されており、交差点内で折れ曲がっていることから、走行位置の不明確による車両どうしの接触事故や車両と横断歩行者との接触事故が発生している交差点である。  
 本事業は、路面表示(カラー)を行い、走行車線の明確化により接触事故の防止を図るものである。

(事業前)



(事業後)



## ● 景観形成の目標像

自然的な景観特性を有する地域に調和した道路空間の形成

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づく防護柵を選定し、存在感の低減、人との親和性に配慮したシンプルな形状とした。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

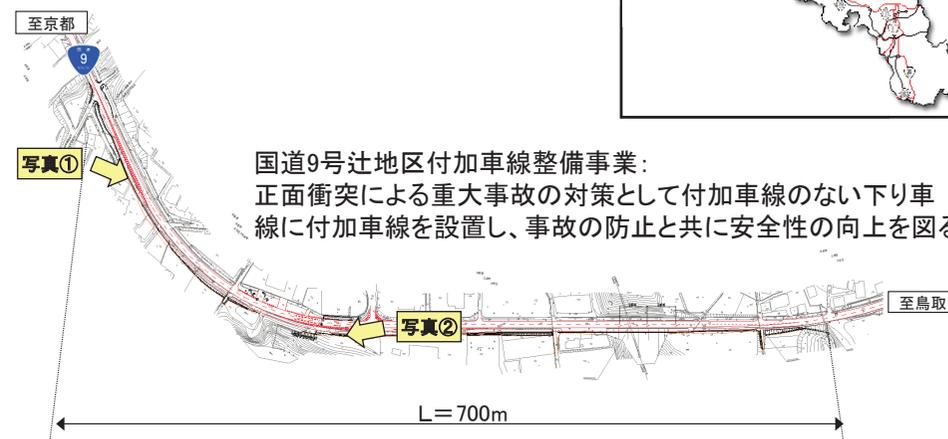
防護柵の色彩は地域の周辺景観と調和させるためダークブラウンを採用し、統一感のある連続的な空間を形成した。

### ③ コスト縮減、費用対効果を考慮した整備の考え方

補修や更新費用を極力抑えるため、汎用性を有する資材を用いた。

(事業後)

(事業前)



国道9号辻地区付加車線整備事業：  
正面衝突による重大事故の対策として付加車線のない下り車線に付加車線を設置し、事故の防止と共に安全性の向上を図る



●景観形成の目標像

周辺景観への視線の確保に配慮した防護柵の設置

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

道路上からみて透過性があり、眺望を阻害しない転落防止柵に採用し、周辺景観への視線を確保した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

透過性がある縦棧のパイプフェンスを採用し、周辺景観への眺望に配慮した。また転落防止柵の色彩は明度彩度の低いブラウン系を採用し周辺景観との調和に配慮した。

付属物の設置は極力さけるため、視線誘導標のみとし、道路と沿線集落との一体感を形成した。



(事業後)

(事業前)



## ● 景観形成の目標像

周辺の景観に調和した道路空間整備を図る

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、前後区間と統一した歩道舗装を実施した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

歩道舗装の色彩は、周辺の景観と調和するため、黒舗装とした。



**国道42号里地区歩道整備事業**  
 当該箇所は、小学校の通学路に指定されており、事故危険区間にも指定されているが、歩道が狭く大型車が多く通行する車道脇を通学するなど、歩行者の安全が確保されていない状況となっている。  
 本事業は、既設歩道を拡幅することにより、安全で安心な歩行空間を確保するものである。

(事業後)

(事業前)



●景観形成の目標像

周辺の景観に調和した道路空間の整備を図る

①施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

統一感のある連続的な空間を形成するため、「景観配慮型防護柵のマスタープラン」に基づき周辺環境に配慮した防護柵を選定した。

②細部設計、材料等の選定の考え方

防護柵の色彩は、周辺の景観と調和するため、ダークブラウンとした。



国道42号内原地区歩道整備事業

当該箇所は、小学校の通学路に指定されているが、歩道が整備されていないため、歩行者の安全が確保されず、非常に危険な状況となっている。

本事業は、歩道を設置することにより、安全で安心な歩行空間を確保するものである。

(事業後)



(事業前)



## ● 景観形成の目標像

周囲の景観に調和した道路空間整備を形成する

### ① 施設や空間の規模・形状・配置等の設定の考え方

連続的な空間を形成するため、前後区間と統一した歩道舗装を実施した。

### ② 細部設計、材料等の選定の考え方

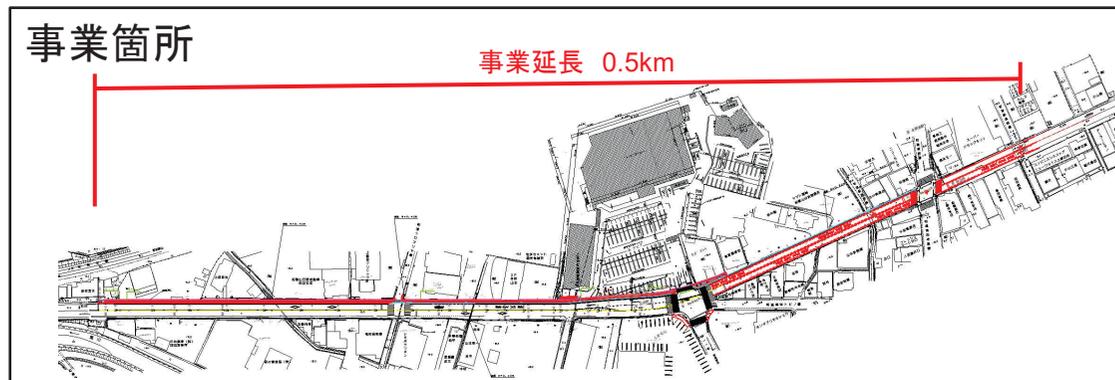
歩道舗装の色彩は、周辺の景観と調和するため、黒舗装とした。



### 国道42号朝来地区歩道整備事業

当該箇所は、朝来小学校の通学路に指定されているが、交通量も多く歩道が未整備であったため、歩行者の安全が確保されておらず、危険な状態となっていた。

本事業で歩道を整備することにより、安全で安心な歩行空間を確保するものである。



(事業前)



(事業後)



①



②

